

【最終評価】横浜市大佛次郎記念館 令和4年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	富岡委員	中村委員	古本委員	ハッ橋委員	米本委員
Ⅰ 文化事業 (使命1・2)	<p>【評価できる点】</p> <p>大佛次郎の作品・資料の調査研究がしっかりとなされており、その活用のためのデジタル化が進んでいることを評価したい。</p> <p>展示に関しては、大佛次郎という文学者のスケールの大きさとその多様性を最大限に活かしている点が大事であり、評価できる。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>〈広報プロモーション〉の中に、〈大佛作品〉を刊行するという重要な業務が位置付けられており、これが記念館の積極的な「働きかけ」であり、「編集協力」の結果であるとの説明があり、この点は高く評価したいが、同時にこの意義深い事業は〈広報〉のカテゴリーをこえて、別個の評価対象として全体的に位置づけられてもよい</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使命1に関する全ての項目で目標を達成あるいは目標を上回る実績となったことを評価します。 ・SNSをはじめ、インターネット上の発信に力を入れたことを評価します。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せっかく工夫されたテーマ展示なので、観覧者数がもう少し増えることを期待します。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙資料のデジタル化や収蔵美術品の修復など、貴重な資料や収蔵品を、後世残す取り組みをされたことを評価します。 ・大河ドラマと関連付けた展示など、多くの人が興味を持つ企画展が行われたことを評価します。 ・大佛次郎の半生を題材とした漫画の単行本が発行されたことにより、若年層の大佛次郎への興味を得る努力がなされたことを評価します。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も幅広い年代の人々が興味を持てる企画を、SNSも活用して発信していった欲しいと思います。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所蔵資料のデジタルデータ化や、関係者からの聞き取り調査など、基礎研究を進めている点を評価します。 ・所蔵資料データの分類・体系化や、データ公開を進めている点を評価します。 ・テーマ展示の観覧者の目標と実績が近い数値であることを評価します。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所蔵資料のデジタルデータ化やその公開が継続されることを期待します。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別資料整理期間を活用した資料調査を実施し、369点のデジタルデータ化を進めた点は評価できます。 ・令和5年度の没後50年記念事業に向け、図書館やホテルなど多様な連携を進め、大佛次郎と記念館のプレゼンスを高めました。 ・大佛作品の新刊、復刊、重版あわせて5冊のほか、大佛次郎の半生を題材にした漫画作品の単行本2巻が刊行され、没後50年を経ても大佛作品を読む機会を増やしたことは大変評価できます。 ・鎌倉を舞台にしたNHK大河ドラマに合わせ、「源実朝」「桜子」にスポットライトを当てた企画は、来館者層の幅を広げる取り組みになったと思います。観覧者数も目標を上回っており、今後もタイムリーな企画を期待します。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より一層のデジタルデータ化を進め、より参照・活用しやすいシステムの構築を期待します。 ・「実朝と桜子」で大河ドラマのパネル展示がSNSで反響を呼んだように、タイムリーな企画でSNS発信を進め、ファン層を広げる取り組みを期待します。
Ⅰ 文化事業 (使命3・5)	<p>【評価できる点】</p> <p>記念館の〈資源〉を活用したサロンコンサート等の新しい企画に、また恒例のネコ企画との相互の展開など評価したい。</p> <p>さらに関連する文学館などとの連携も評価したい。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>美術館や文学館との積極的な連携と発信がなされているが、今後できればさらに神奈川・横浜の教育機関(大学など)との連携ができれば、大佛次郎の歴史的偉大さの受容につながるのではないと思われる。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使命3・5に関する全ての項目で目標を達成あるいは目標を上回る実績となったことを評価します。 ・上記の成果達成の背景には、例年以上の助成金が獲得できたことも大きいと考えられます。充実した事業実施のための助成金獲得に向けた努力を高く評価します。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せっかくの連携実績、ネットワークを可視化できると相乗効果が増すと考えられるため、ご検討いただければと思います(あくまで一例ですが、先日別のミュージアムの会議の場で、他館への貸出実績が見える化する(「〇〇展に貸し出し中です」「〇〇展から戻ってきました」のように、他館の展示に貢献した情報をSNS等で積極的に見せるという事例を聞きました)。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生向けミニビブリオバトルをはじめとした子供向けの企画や、乳幼児や子育て世代が参加できるスイッチョねこロビーコンサートなど、新しい世代の興味を引く企画が開催出来たことを評価します。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、夏休みなどに家族で参加出来るようなイベントが開催されることを期待しています。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大佛次郎賞記念講演会に多数の入場者が来場された点を評価します。 ・サロンコンサートやロビーコンサートなど、記念館の場を活かした企画が行われた点を評価します。 ・諸機関や近隣施設などと連携する活動を実施している点を評価します。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記念館の場を活用した催事が継続的に実施されることを期待します。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大佛次郎賞記念講演会の来場者が目標を大幅に上回ったことは評価できます。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「和の装い de ビブリオバトル」で初めて書籍と服装をテーマにしたように、新しい切り口で幅広い層の来館を促す取り組みを期待します。
Ⅱ 施設運営 (使命4)	<p>【評価できる点】</p> <p>和室・会議室とも利用率が目標を上回ったことは評価したい。</p> <p>施設運営の人材の配置と職能は計画通りの実施と説明されていて、組織的な運営がなされていると認識する。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ全ての項目で目標を達成あるいは目標を上回る実績となったことを評価します。 ・周辺施設との連携の観点からも、観光案内に対応したことを評価します。 ・空き状況をホームページでいつでも確認できるようにしたことは、利便性向上と貸し出し増につながることを期待できます。 ・ウェブ来訪者数の目標設定の見直しの必要性に気づき、対応したことを評価します。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ以前に戻せる部分とコロナを機に変わってしまった部分の両面を検討しつつ、入館者数や施設利用率の目標達成を考えていただきたいと思います。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和室・会議室の利用が、SNSの活用などの工夫により目標を上回ったことを評価します。 ・季節ごとに変わるサロンの装飾が美しく、見ごたえがあるものになっていました。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和室や会議室について、利用の増加や空き状況の公開など、適切な施設運営が行われている点を評価します。 ・職員やスタッフに対して各種の研修が行われている点を評価します。 ・効果的なポストカード・プレゼント企画が行われた点を評価します。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な目的で和室や会議室を利用する事例が増えることを期待します。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSを活用した広報活動などで和室や会議室の利用実績が目標を上回ったことは評価できます。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ以前の水準を目指して、さらなる利用者の拡大に向けた取り組みを期待します。

【最終評価】横浜市大佛次郎記念館 令和4年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	富岡委員	中村委員	古本委員	ハッ橋委員	米本委員
目 施設管理（使命6）	<p>【評価できる点】</p> <p>施設維持・資材保存が計画どおりなされている点を評価したい。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>築40年以上の館の全面的な改修工事が必要となっていると思われるが、今後の中長期的な館の運営についてのビジョンが求められていると考える。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・ほぼ全ての項目で目標を達成したことを評価します。 ・非常食のフードドライブへの寄付を評価します。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>・築40年以上経過しているため、引き続き良好な施設維持管理をよろしくお願いいたします。 ・施設管理業務についても、SNS で発信して文化施設運営に理解を深めてもらうことにつながればと思います。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・施設・設備の良好な維持管理が行われていると感じました。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>・老朽化に伴う不具合に迅速に対応できるような管理を希望します。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・築年数に応じた適切な施設管理が実施されている点を評価します。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・計画通りに施設維持や資料保存が行われたと思います。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>・築40年以上経過して劣化が進んでいるため、引き続き横浜市と密に連携を取りながら施設の維持管理に努めて下さい。</p>
収 支	<p>【評価できる点】</p> <p>良好な収支バランスが達成できていることは、コロナ感染後に以前の入館者数・施設利用率が回復していない（これは当分の間回復は難しいと思われる）状況下で評価できると思われる。横浜市の必要な支援を高く評価する。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・公的な助成金・補助金等の活用を高く評価します。 ・施設広報の観点からも、撮影・収録での利用を高く評価します。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・和室・会議室利用料及び自主事業の収入を予算よりも大きく増やし、各種補助金等を獲得したことを評価します。 ・諸物価高騰の中、実質収支差額が▲76,585 円であったことは高く評価できると思います。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>・今後も物価高騰は続くので、より一層の適切な予算管理が必要となると思います。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・施設利用料収入が予算を上回った点を評価します。 ・事業収入が目標を上回った点を評価します。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・コロナや光熱費高騰などの急変があった難しい時期でしたが、優先順位をつけながら収支のバランスをとっていただけだと思います。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>・引き続き物価や光熱費の高騰が予想されるため、市とも密接に連携を取りながら収支のバランスを図っていく必要があると思います。</p>

	富岡委員	中村委員	古本委員	ハッ橋委員	米本委員
総 括	<p>コロナ感染の拡大からの困難な状況に、様々な企画やアイデア、新しい発信や広報の努力によって記念館が運営されていることを高く評価したい。</p>	<p>・様々な活動に積極的に取り組まれた1年だったと感じました。 ・コロナ以前に戻せる部分とコロナを機に変わってしまった部分の両面を検討しつつ、今後の事業を考えていただきたいと思います。 ・文化政策・ミュージアムに期待される役割の潮流として「文化観光」に関する情報にも目配りしつつ、運営していただければと思います。</p>	<p>・様々な展示や企画を通して、大佛次郎文学や大佛次郎の人となり、大佛次郎記念館の魅力を伝えようとする意欲を感じます。今後も色々な取り組みにより、幅広い年代層の大佛次郎ファンが獲得出来ることを期待しています。</p>	<p>・所蔵資料のデジタル化といった基礎研究を継続的に進めていること、また場所としての記念館の活用を試みていることは良い取組みであると感じます。</p>	<p>コロナ禍や物価・光熱費の高騰など変化の大きい一年でしたが、令和5年度の没後50年の節目に向けて、着実に活動の幅を広げられたと思います。近隣施設との連携やSNSの活用、資料のデジタルデータ化など、令和4年度の実績が次年度の活動に着実につながることを期待しています。</p>

令和4年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理業務計画表兼評価表（自己評価・行政評価）

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価		
I文化事業	指定管理者提案（要旨）	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価	
I文化事業	作品、旧蔵資料、寄贈資料及び関連資料の収集、保存及び大佛次郎に関する調査、情報の集積【使命1】	資料調査	■絵画（木村荘八）及び出納関係紙資料の保存状態の確認と撮影	実施	実施	・展示替に続く8/27-9/2を特別整理期間としました。 ・特別整理期間に416点の資料調査を実施し、木村荘八作品（大佛次郎作品「激流」挿絵）51点を含む369点をデジタルデータ化し、目標を大きく上回る成果を得ました。	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別資料整理期間を活用し、416点の資料調査を実施し、369点のデジタル化を行いました。また令和5年度の出版に向けて「南方ノート」「戦後日記」の翻刻校正を進めました。 ・令和5年度の没後50年記念の出版に向け、出版社・執筆者・著作権継承者と緊密に連絡しながら、書籍の編集を進めました。 ・令和5年度の没後50年記念事業を多様な主体・ジャンルに広げるため、連携を呼びかけました。横浜市中央図書館、ホテルニューグランド、錦木清方記念美術館、横浜にぎわい座等、多彩な連携が実現しました。 ・紙資料のカリカチュア目録（約2,600点）のデジタル化を行いました。 ・資料活用の基盤となる新デジタルアーカイブ構築のため、既存データを含めたデータの分類体系化などの準備を進めました。 ・NPO法人 美術保存修復センター横浜の「絵画修復プロジェクト」により、5点の収蔵美術品修復を行いました。 ・愛蔵品コーナーの五姓田義松関連の展示とあわせ、新たなブックレット「尋ねびと」の刊行と販売を行いました。 <p>【課題】</p> <p>令和4年度に整えた新デジタルアーカイブの検証・調整をシステム会社と行いながら、今後は本格的にデータを流し込んでいく段階となります。令和5年度以降の展示での活用等を考慮しながら優先順位をつけて、デジタル化を計画的に進めていく必要があります。</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の収集、保存及び公開を適切に行い、特別資料整理期間を活用した資料調査を実施し、369点のデジタル化を行うなど、貴重な資料の保存と継承に努め、またその展示公開を通じ横浜の文芸文化の発展に寄与したことを高く評価します。 ・紙資料のカリカチュア目録（約2,600点）のデジタル化もを行い、貴重な資料を後世に残す取組を集中して進めました。 ・所蔵資料のデータ公開やレファレンス対応により資料の活用を図り、6施設での資料展示に繋がったことや校外学習や団体への解説や紹介の機会を通じ、文化事業を通じて子供たちが物語の世界に触れ感性を育む機会を創出し文学館の基本的な機能である「観る、知る、読む」体験により「考える」力を深めるきっかけ作りを継続的に行いました。 ・展示や解説、刊行物の活用方法等、ブログやSNS・動画を積極的に活用した点を評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵資料の適切な保存及び公開に継続して取り組むとともに、資料のデータベースの参照のしやすさ等の観点からの収蔵資料の整理を推進していただくことを期待します。 ・オープンデータについてより汎用性のあるシステムの構築を検討していただき、データの活用につなげることを期待します。 	
			□所蔵資料（展示に活用する木村荘八絵画）のデジタルデータ化	50点	51点			
			□利用者に影響の少ない8月に上記資料調査のための特別休館	1週間	1週間			
		翻刻	□翻刻資料の展示・出版への活用	5点	5点	・書簡や日記など直筆資料5点を新たに翻刻し、展示に活用しました。 ・令和5年度の出版に向けて、「南方ノート」「戦後日記」の翻刻・校正を進めました。		
			■固有名称や年代等に留意して翻刻	実施	実施			
		分析・研究	■展示・刊行に関連した資料（南方ノート、戦後日記）の調査研究	実施	実施	・「南方ノート」「戦後日記」の関連資料を国会図書館や専門資料館で調査しました。 ・展示に関連した他館所蔵資料等の調査を、計画より多い10回行いました。		
			□他館収蔵資料等の調査	3回	10回			
		基礎研究	資料の保存、管理	■IPMの考え方にのっとり資料保存環境の整備	実施	実施		・点検、記録、清掃等を記載通り実施しました。 ・新収蔵資料が増えたため、資料を適切に保存するための保存箱等資材の充実を図りました。
				□特別書庫、書庫、ギャラリー等の点検、記録、調整	2回/日	2回/日		
				□休館日を利用した防塵作業	1回/月	1回/月		
				■資料は保存箱に収めて分類保管	実施	実施		
				■特別書庫内資料の出入庫表への記録	実施	実施		
				□専門業者による 防塵防霉処理	1回	1回		
		収集、修復	■関係者から情報を聞き取り、記録	実施	実施	・関係者から折に触れて大佛次郎との関係やエピソードを聞き取り、記録に残して情報を共有しています。 ・館内資料収集検討会議により受け入れ資料を決定しました。 ・展示に関連する挿絵1点を購入しました。 ・NPO法人 美術保存修復センター横浜の「絵画修復プロジェクト」によって、ご寄附により5点の収蔵美術品修復を行いました。		
			□館内資料収集検討会議の開催	1回	2回			
■資料の状態を確認し、修復が必要な資料を把握	実施		実施					
■必要に応じて専門業者に修復を依頼	実施		実施					
2	分類、体系化	■所蔵資料データの分類、体系化	実施	実施	・複数のエクセルファイル等で、ファイルごとの分類に従って記録・保存されてきた所蔵資料のデータを、一元的に管理するための、分類・体系化を行いました。その分類に従い、クラウド上にテストDBを設け、一部データの移行を行いました。 ・紙資料のカリカチュア目録をデジタル化しました。 ・ルヌアール作品315点をデジタル化しました。 ・現行検索システムに新たなカテゴリー（LPレコード）を追加、公開しました。			
		■資料の全容把握	実施	実施				
	一元化のためのデータ整備	□紙媒体（カリカチュア目録）のデジタル化	1アイテム	1アイテム				
		■既存データ間の項目を整理し、一元化のためのデータの振り分け	実施	実施				
		□画像データ（カリカチュア）の追加	1カテゴリー	1カテゴリー				
	新デジタルアーカイブへのデータ移行	■移行データの確認	実施	実施				
		■移行データの加工	実施	実施				
	新デジタルアーカイブの公開と運用	□現行検索システムに新たなカテゴリー（LPレコード）を追加、公開	1カテゴリー	1カテゴリー				
■クラウドサービスの内容精査		実施	実施					
■画像データを含む所蔵品データを著作権等の観点から精査		実施	実施					
3 集の調査・発信と公開	新デジタルアーカイブを活用した発信	■新デジタルアーカイブ移行準備（再掲）	実施	実施	・新デジタルアーカイブの準備を進めながら、現行オープンデータシステムで所蔵資料のデータ公開を継続しました。 ・SNS等で、展示イベントと連動して所蔵資料とリストを紹介しました。			
		■オープンデータシステムの継続	実施	実施				
		□所蔵資料を展示イベントと連動して紹介	3回	3回				
所蔵資料の検索	□現行検索システムに新たなカテゴリー（LPレコード）を追加、公開（再掲）	1カテゴリー	1カテゴリー	・「おさらぎ選書第1集～11集」および資料目録の閲覧提供、販売を実施しました。 ・SNS等で、検索システムや刊行物を活用する方法を紹介しました。				
	■新デジタルアーカイブ移行準備（再掲）	実施	実施					
	■「おさらぎ選書第1集～11集」および資料目録の閲覧提供、販売	実施	実施					

評価項目		令和4年度計画			実施状況	
	指定管理者提案（要旨）	取組内容	目標	年間実績	説明	
普及活動	4 閲覧	■大佛作品や大佛次郎賞及び大佛次郎論壇賞受賞作、関連図書等を開架で公開	実施	実施	・閲覧室内に「おススメコーナー」を新設し、展示関連書籍をリストとともに配置しました。	
		□閲覧書籍の追加	3点	4点	・大佛次郎賞受賞者のサイン本を展示しました。 ・新刊書閲覧書籍を追加しました。	
		■特別資料の閲覧は総合的に判断	実施	実施	・特別資料の閲覧4回	
	書籍販売	■書店では入手が難しい書籍を販売	実施	実施	・書店では入手が難しい作品を含め、大佛著作、研究書などを販売しました。	
		■おさらぎ選書やブックレットを販売	実施	実施	・玄関のショーケースを活用した初版本の紹介を開始し、書籍への関心を高めることができました。	
		■文庫本にオリジナルカバーを付ける	実施	実施	・新刊ブックレット「尋ねびと」を含む選書・ブックレット等、約40種を販売しました。	
	レファレンスサービス	■レファレンスサービスの充実	実施	実施	・レファレンス対応66件 ・ブログとSNSで、展示に関連したレファレンス事例を3回発信しました。	
		□レファレンス事例をSNS等で発信	3回	3回		
	展示解説	□テーマ展示解説	1回/月	1回/月	・展示解説を計画通り実施 ・校外学習や団体入館のお客様を対象に、大佛次郎の作品と生涯を説明しました。	
		■団体説明	実施	実施	・展示や解説の一部をブログ、SNS、動画などを活用し積極的に行いました。	
		□展示や解説の一部をSNS等で発信	3回	29回		
	大佛次郎に関する展示公開と普及活動の推進【使命2】	1 刊行物	■『南方ノートと戦後日記』（仮）の編集	実施	実施	・令和5年度の発刊に向けて、編集を進めました。 ・歴史的資料の調査を踏まえ、注釈は計画を大幅に上回る約300件となりました。
□注付け			200件	299件	・「おさらぎ選書」第29集のため、受贈資料リスト作成などの準備を行いました。 ・新刊ブックレット「尋ねびと」を刊行しました。	
おさらぎ選書の刊行		■「おさらぎ選書」第29集の準備	実施	実施	・ブックレット全7冊を市内18図書館に閲覧用として送付しました。	
大佛次郎記念館ブックレットの刊行		□ブックレットの刊行	1冊	1冊		
2 テーマ展示	2 テーマ展示 企画展（テーマ展示）の開催（年3回） テーマ展示Ⅰ「実朝と桜子 ～大佛次郎が描いた武士と雅～」4/23-8/21	□観覧者数	5,500人	6,000人	・NHK大河ドラマで鎌倉が目される年に合わせ、時代小説の中でこれまで注目される機会が少なかった「源実朝」「桜子」にスポットライトをあて、史実と創作の度合いの異なる2作品を同時に紹介。それにより、歴史や史料と向き合う姿勢、さらにストーリーに活かす発想力など、大佛次郎という人物と作品の幅を示すことができました。	
		□展示解説	1回/月	1回/月	・舞台となった土地【鎌倉】と【京都】それぞれの土地を動画でたどるスライドショー上映では、サロンで長時間視聴する観覧者も見られ、大佛次郎の作品世界を紹介するとともに、展示を理解する一助となりました。	
		□たてものミニミニトーク	1回/月	1回/月	・長期休館前の鎌倉文学館と連携し、展示観覧料の相互割引、両館の展示担当者によるトーク「展覧会のススメ」動画をYouTubeで配信し、より多くの人々に周知できました。	
		■関連事業 作品ゆかりの地を映像で紹介	実施	実施	・NHK横浜放送局共催「鎌倉殿の13人」パネル展示は大佛ファンがSNSなどで発信するなど反響がありました。	
		■鎌倉文学館との連携	実施	実施		
		■NHK大河ドラマとの連携（追加） パネル展「鎌倉殿がやって来た」	実施	実施		
	テーマ展示Ⅱ「JAZZが聞こえる 大佛次郎の"昭和モダン"」9/3-12/25	□観覧者数	5,500人	5,183人	・大佛次郎夫妻が謳歌し、小説世界に息づく「昭和モダン」を体感できる展示。記念館全体を会場に、視覚と聴覚両方に訴える、ジャンル融合的な展示方法を実現し、「ジャズ」を切り口に「昭和」という時代、そして作品の舞台となった「横浜」への関心を喚起し、それを生きた大佛次郎とその作品への理解を深め、親近感を高めることができました。	
		□展示解説	1回/月	1回/月	・初公開資料を含め128点もの多彩な資料を展示し、記念館全体で「モダン」な雰囲気を実現することができました。	
		□たてものミニミニトーク	1回/月	1回/月	・展示や関連事業にそれぞれの助成金を獲得できたことで、展示方法やコンテンツをより充実させることができました。	
		■関連事業 JAZZをテーマにした講演会	実施	実施	・フェスティバル事業「横浜音祭り」、「横浜JAZZ PROMENADE ジャズプロ・サテライト」に参加し、複数の広報チャンネルで発信し新たな層にアピールできました。	
■関連事業 地域のNPOと連携したパネル展示（追加）		実施	実施	・「横浜音祭り」の補助を受け、講演会「講演会「ジャズで語ろう！ 大佛次郎の昭和モダン」を実施しました。		
■関連事業 SPレコードのデジタル音源公開（追加）		実施	実施			
■関連事業 SPレコード鑑賞会（追加）		実施	実施			
■関連事業 市民団体と連携したトークイベント（追加）		実施	実施			
■横浜音祭りへの参加	実施	実施				

評価	
【成果】	【評価できる点】
<p>・「南方ノートと戦後日記」（仮）出版は、令和5年度刊行に向けて監修・執筆者を決定し、出版社と連携しながら、翻刻、注釈、校正、編集を進めました。</p> <p>・テーマ展示ごとに多彩な側面から、大佛次郎の人物と作品を紹介することで、幅広い対象に向けて、作家・作品への関心を高めることとなり、ほぼ目標通りの来場者につながりました。</p> <p>・テーマ展示の内容や新刊刊行、時事のトピックスと関連付けて、愛蔵品コーナー、フランス月間ミニ展示、大河ドラマのパネル展示など、施設全体を楽しんでいただく工夫を行いました。</p> <p>・大佛作品の新刊、復刊、重版あわせて5冊と、大佛次郎の半生を題材とした漫画作品の単行本（全2巻）が刊行されました。</p> <p>・広報においては、SNSを積極的に活用し、情報を発信しました。</p>	<p>・展示に関連する他館所蔵資料等の調査を計画より多く行い、直筆資料5点を新たに翻刻し展示に活用するなど、収蔵品を展示するあたり幅広く市民の方へ興味を持ってもらえるよう、研究していました。</p> <p>・年3回のテーマ展示は、大河ドラマと同年代の歴史小説や市で実施している横浜音祭りと連携するなど、大佛次郎という人物と作品がテーマ毎に関連づけられ興味深い企画内容となり、大佛次郎や施設の認知度向上に寄与したと考えられます。コロナ禍でありながら昨年度を超える（対117%）来場者数に繋がったことは評価に値します。</p> <p>・大佛次郎没後50年に向けて、多数の施設等と連携事業を模索・共同企画し、没後50年に当たる2023年に相応しい記念事業や出版の準備を多様な切り口で進め、魅力ある計画が立てられています。</p> <p>・積極的な働きかけや編集協力を行った結果、大佛作品新刊、復刊、重版あわせて5冊、大佛次郎の半生を題材にした漫画の単行本2巻が刊行され、大佛次郎作品を読む機会の減少という課題の解決に取り組みました。</p> <p>・閲覧室のレイアウト変更や展示・イベントと連動したおすすめ本コーナーを新規に設置し、書籍とともに関連する作品リストを配置したり、館内掲示のQRコードから朗読音声で鑑賞できる機会を創出するなど、館内利用者のサービスを向上しました。</p>
【課題】	【更なる取組を期待する点】
<p>新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月に感染法上の位置づけが変更になったことで、来館にあたって定員制限など物理的な制約は無くなりましたが、令和元年以前の入館人数にはまだ回復してない状況です。成果に記載したような、展示開催の工夫や、来館促進活動を継続的に行う必要があります。令和5年度は大佛次郎没後50年記念の年でもあり、他施設や地域との連携など、来館促進につながる取組を実施してまいります。</p>	<p>・引き続きSNSの活用や動画の配信等、幅広い世代へアプローチする情報発信の取組の継続をお願いします。</p>

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価
		取組内容	目標	年間実績		
3	収蔵品展等	■横浜JAZZ PROMENADE ジャズプロ・サテライトへの参加（追加）	実施	実施	・ロビー展示「横浜山手に暮らす人々～昭和のはじめ」、レコードコンサート「蓄音機でたのしむ昭和のしらべ」、トークイベント「大佛次郎のモダンライフー鎌倉の家」は、地域の文化団体の協力を得て実施しました。	
		□観覧者数	5,000人	4,473人	・これまで展示の機会が少なかった作家・作品に焦点を当て、第1章「古きも新しきも」、第2章「友情の跡かた」と題して、当記念館が所蔵する美術品を紹介しました。	
		□展示解説	1回/月	1回/月	・第3章「ポール・ルヌアール版画と修復」では、寄付金を活用して修復した版画作品を紹介しました。	
		□たてものミニミニトーク	1回/月	1回/月	・NPOの協力を得て、修復に関するトークを行い、広く関心を引き起こすことができました。	
		■関連事業 所蔵美術品レクチャー	実施	実施	・横浜美術館共催「アートでめぐる横浜の街-中区編-」は、美術館所蔵作品とともに、中区を描いた大佛作品に触れ、文字活字文化の魅力を多面的に感じていただく機会となりました。	
	1階ロビー展示	■関連事業 アートでめぐる横浜の街-中区編-（追加）	実施	実施	・大佛次郎の生涯をパネルと動画で紹介する常設展示を、日英併記で常時実施しました。	
		■年表や写真パネルを展示	実施	実施	・夏休み時期には、「スイッチョねこまつり」にあわせて、2人の画家による絵本の原画パネルを展示しました。	
		■日英併記	実施	実施	・テーマ展示Ⅱ「JAZZが聞こえる 大佛次郎の"昭和モダン"」関連のパネル展示「横浜山手に暮らす人々」では、大佛作品の舞台となった昭和初期の山手地区を、当時の写真などで紹介しました。	
		■挿絵パネル展示（追加）	実施	実施		
	収蔵品展	■地域のNPOと連携したパネル展示（追加）	実施	実施		
		■大佛次郎の主要作品とともに、幅広い作品世界を網羅的に紹介	実施	実施	・収蔵品展では、「宗方姉妹」出版やドレフュス事件を題材とした映画の公開など、折々のトピックと展示・イベントにあわせて5回コーナーを設けました。	
		□収蔵品展内に特集展示コーナー設置	1回	5回	・フランス月間参加事業 ミニ展示「横浜山手のジャンヌさん」は、大佛夫妻と親交のあった家族のファミリーヒストリーをたどることで、日仏交流の歴史を掘り起こしました。好評のため会期を延長して開催しました。	
		■第三共和政時代のフランス社会に関連した資料を活用	実施	実施	・愛蔵品コーナー「大佛次郎と長谷川路可-イタリヤに咲いた花」は、日本画・油彩画・フレスコ画と多彩な創作を続けた長谷川路可の活動と二人の交流を紹介しています。路可の大幅の日本画を展示したテーマ展示Ⅲ「大佛次郎 美術の楽しみ-大佛次郎記念館コレクションより」の関連事業にも位置づけました。	
	愛蔵品コーナー	■フランス月間参加（追加）	実施	実施		
		□美術品をはじめとする大佛次郎の愛蔵品を紹介	1回	1回		
4	4 基礎研究と展示、刊行物の連動 特別資料整理期間を利用した資料調査	■特別資料整理期間を利用した資料調査（再掲）	実施	実施	・特別資料調査期間に調査した資料の中から、今後の展示等に活用する資料を選定しました。	
		■活用する資料の選定	実施	実施		
5	所蔵資料の検索	□現行検索システムに新たなカテゴリーを追加、公開(再掲)	1カテゴリー	1カテゴリー	・新デジタルアーカイブの準備と並行して、現行検索システムに新たなカテゴリー（LPレコード）を追加、公開しました。	
		■新デジタルアーカイブ移行準備（再掲）	実施	実施	・「おさらぎ選書」及び資料目録の閲覧提供、販売を行うとともに、活用事例をSNSで紹介しました。	
		■「おさらぎ選書第1集～11集」および資料目録の閲覧提供、販売	実施	実施		
	閲覧	■大佛作品や大佛次郎賞及び大佛次郎論壇賞受賞作、関連図書等を開架で公開	実施	実施	・新刊本等4点を閲覧書籍に追加しました。	
		□閲覧書籍の追加（再掲）	3点	4点	・調査研究目的の特別資料閲覧に対応しました。	
		■特別資料の閲覧は総合的に判断（再掲）	実施	実施	・閲覧室のレイアウトを一部変更して、展示やイベントと連動したおすすめ本コーナーを新規に設置し、書籍とともに関連する作品リストを配置しました。	
		■おすすめ本コーナーの設置（追加）	実施	実施		
	書籍販売	■書店では入手が難しい書籍を販売（再掲）	実施	実施	・新刊既刊を問わず、記念館が発行する冊子や書店では入手が難しい書籍を販売しました。販売にあたり、内容紹介付の販売リストを用意しました。	
		■おさらぎ選書やブックレットを販売（再掲）	実施	実施	・文庫本にオリジナルカバーを付けて販売し、記念館ならではの付加価値を付けました。	
		■文庫本にオリジナルカバーを付ける（再掲）	実施	実施		
レファレンスサービス	■レファレンスサービスの充実（再掲）	実施	実施	・レファレンス対応66件		
	□レファレンス事例をSNS等で発信（再掲）	3回	3回	・大佛作品の読者、メディア、出版社など、様々な方に対応しました。		
展示解説	□テーマ展示解説（再掲）	1回/月	1回/月	・展示解説や展示説明では、質疑を通じて、内容を掘り下げました。		
	■団体説明（再掲）	実施	実施			
	□展示や解説の一部をSNS等で発信（再掲）	3回	29回			

評価項目		令和4年度計画			実施状況		
	指定管理者提案（要旨）	取組内容	目標	年間実績	説明		
広報プロモーション	6 広報・プロモーション活動の推進 広報活動	■紙媒体と放送による広報	実施	実施	・紙媒体、放送、WEBによる広報を行いました。 ・PRTIMESによる情報発信を積極的にを行い、目標の2倍以上活用しました。 ・SNS投稿は、月当たりの平均投稿数が目標の約3倍となりました。		
		□PRTIMESやイベントバンクを活用し、WEBによる情報発信	5回	12回			
		□SNS投稿	20回/月	58.8/月			
	HPのリニューアル	■仕様の決定	実施	実施			
大佛作品を後世に残す活動	■新規出版、再版の働きかけ	■新規出版、再版の働きかけ	実施	実施	・積極的に働きかけ、編集協力を行った結果、大佛作品の新刊、復刊、重版あわせて5冊と、大佛次郎の半生を題材にした漫画作品の単行本2巻が刊行されました。 ・SNSでの引用発信を目標以上の18回行いました。 ・朗読音声や館内掲示のQRコードから鑑賞できる機会を設けました。		
		□引用の発信	10回	18回			
		■音声による鑑賞機会の提供	実施	実施			
各種文化的行事の実施【使命3】	1 大佛次郎賞受賞記念講演会	□実施回数	1回	1回	・大佛次郎賞受賞記念講演会は、新型コロナウイルス感染症予防ガイドラインの改訂により会場定員の半数を超える入場が可となり、353名の参加がありました。堀川恵子氏の講演「リーダーはなぜ罷免されたのか〜 浜っ子中將”田尻昌次の足跡」は、受賞作『暁の宇品-陸軍船舶司令官たちのヒロシマ』の背景にまで迫る充実した内容でした。		
		□入場者数	100人	353人			
	大佛次郎論壇賞受賞者による市民講座	□実施回数	1回	1回	・市民ギャラリーあざみ野との共催で、大佛次郎論壇賞受賞者による市民講座を初開催し、64名が参加しました。東畑開人氏による「聞くとは何か 一他者の話を聞けなくなるとき」は、コミュニケーションについて深く分かりやすい講座でした。		
		□入場者数	48人	64人			
	文学に触れる機会の創出	文学ウォーキング	■ゆかりの場所の調査	実施	実施	・「和の装いdeビブリオバトル」は、テーマ展示の関連事業として、初めて書籍と服装にテーマを設け和室で開催しました。中高生オンラインビブリオバトル、小学生ミニ・ビブリオバトルと合わせ23名が熱いバトルを繰り広げました。終了後の交流も盛んに行われ、本と人、人と人を繋ぐことができました。 ・デモ・ビブリオバトルを区内3校で実施しました。デモをきっかけに、教員向けビブリオバトル研修を3回行いました。 ・読み聞かせボランティアへのヒアリングを実施しながら、実施形態や団体へのアプローチを検討しました。	
			□一般の部開催	1回	1回		
			□参加者数	6人	8人		
			□中高生ビブリオバトル	1回	1回		
			□参加者数	6人	9人		
			□小学生ミニ・ビブリオバトル	1回	1回		
			□参加者数	6人	6人		
			■デモ・ビブリオバトル	実施	実施		
	■開催準備	実施	実施				
	大佛次郎研究会公開発表会	■共催団体として広報や準備・運営に協力	実施	実施			
■共催団体として広報や準備・運営に協力		実施	実施				
大佛次郎記念館の資源を活かした芸術文化、多様性を学ぶ機会の創出	2 大佛次郎記念館の資源を活かした芸術文化、多様性を学ぶ機会の創出 「大佛次郎×ねこ写真展」	□開催回数	1回	1回	・大佛次郎記念館の資源である、場と作品を活かしたサロンコンサートを初開催しました。朗読と演奏で物語世界を堪能する機会となりました。 ・恒例の「大佛次郎×ねこ写真展」では、近隣の”ねこ”展と相互に連携しました。		
		■新たな工夫	実施	実施			
	たてもミニ・ミニ・トーク	■建築についてのミニ解説（再掲）	実施	実施	・テーマ展示Ⅱ「JAZZが聞こえる 大佛次郎の”昭和モダン”」関連事業として、「蓄音機で楽しむ昭和のしらべ」を3回開催しました。		
		■開催準備	実施	実施			
	サロンコンサート	■開催準備	実施	実施	・横浜美術館との共催により、文字活字文化の魅力を伝える事業として、横浜【出前】美術館「アートでめぐる横浜の街-中区編-」を開催しました。横浜美術館の所蔵品の中から、大佛次郎ゆかりの場所や小説とも関連する中区を描いた作品を紹介し、大佛次郎記念館所蔵の挿絵と合わせて、文学の魅力を多面的に伝えることができました。		
		■ロビーコンサートの開催	実施	実施			
	レコード鑑賞	□開催回数	1回	3回			
		□開催回数	2回	2回			
	和室公開	■桜の春、紅葉の秋に公開	実施	実施			
		□開催回数	2回	2回			
横浜山手西洋館との連携事業	□ハロウィンウォーク	1回	ハロウィン装飾の同時開催に変更				
	□山手芸術祭ユースギャラリー	1回	広報連携に変更				
文学活字文化の魅力伝える事業	□開催回数	1回	1回				
	□参加者数	8人	18人				

評価	
【成果】 ・令和4年度は地域の文化芸術活性化支援事業（地域活性化モデル事業）や横浜音祭り補助金など、例年以上に助成金を得て、サロンコンサートやレコード鑑賞会など充実の内容で行うことができました。 ・文字活字文化を伝える事業として横浜美術館との連携事業の実施、市民ギャラリーあざみ野との連携による大佛次郎論壇賞受賞である東畑開人氏によるコミュニケーションをテーマとした市民講座を開催しました。 ・テーマ展示の関連事業として「蓄音機で楽しむ昭和の調べ」等、当館の場所と雰囲気を生かしたサロンコンサートを実施しました。また1Fのロビーを活用したロビーコンサートを新規に実施しました ・大人を対象としたビブリオバトルは、若い世代の参加を視野に「和の装いでビブリオバトル」をはじめ和室で開催した。	【評価できる点】 ・大佛次郎及び作品の普及という目的のため、きめ細やかな調整を重ねて、満足度の高い企画を実現したことを評価します。 ・「大佛次郎賞記念講演会」はコロナウイルス感染症ガイドライン改定により、人数制限を緩和し開催できたこともあり、来場者は目標当初から大幅に上回りました。 ・大人を対象とした「和の装いdeビブリオバトル」は、テーマ展示の関連事業として、初めて書籍と服装にテーマを設け、開催場所を和室とすることで和室のPRにも繋がったことを評価します。 ・1Fのロビーを活用したロビーコンサートを初開催しました。 ・子ども向けに、小学生ミニビブリオバトル、スイッチねこロビーコンサート、スイッチねこまつりでのクイズや子どもアドベンチャーでの書庫を含む館内ツアー、大佛次郎作施設間や地域との連携から重要となるため、記念館の中でノウハウの蓄積と日頃からの各所との関係づくり継続的に維持する体制をつくる必要があります
【課題】 施設間や地域との連携から重要となるため、記念館の中でノウハウの蓄積と日頃からの各所との関係づくり継続的に維持する体制をつくる必要があります	【更なる取組を期待する点】 ・今後の事業展開の検討にあたっては、既存の枠組のみに捉われない切り口の事業を展開する等、引き続き新しい発想で企画・立案をしていただくことを期待します。

評価項目		令和4年度計画		実施状況		
	指定管理者提案（要旨）	取組内容	目標	年間実績	説明	
若い世代に向けた文化体験イベントの開催	若い世代に向けた文化体験イベントの開催 ビブリオバトル・シリーズ（再掲）	<input type="checkbox"/> 中高校生ビブリオバトル	1回	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代を対象に、文学に親しめる多彩なイベントを開催しました。 ・中高校生ビブリオバトルには、県内6校から9名が参加し、オンラインで交流しました。参加者からは交流を深めたいとの希望があり、今後は集合形式での開催を検討しています。 ・小学生ミニ・ビブリオバトルには、市内学校から6名が参加しました。本をきっかけに会話がはずみ、終了後も熱心な交流がみられました。 ・「スイッチョねこロビーコンサート」は乳幼児も参加可とし、子育て世代がミュージアムへ来館するきっかけを作りました。 ・「スイッチョねこまつり」では、小学生向けクイズシートを新たに作成し、親子で参加できる工夫をしました。 ・教育委員会主催「こどもアドベンチャー」に参加し、書庫を含む館内ツアー、大佛次郎作「白猫白吉」の感想画制作を体験しました。作品はWEB展覧会で公開し、好評でした。 ・県立歴史博物館共催「ミュージアム・ミッション」では、WEBクイズとMAPラリーを開催し、楽しみながら特色あるミュージアムを体験する機会を提供しました。 	
		<input type="checkbox"/> 参加者数	6人	9人		
		<input type="checkbox"/> 小学生ミニ・ビブリオバトル	1回	1回		
		<input type="checkbox"/> 参加者数	6人	6人		
	ロビーコンサート（追加）（再掲）	■スイッチョねこロビーコンサートの開催	実施	実施		
	スイッチョねこまつり（追加）	■スイッチョねこまつりの開催	実施	実施		
	横浜市芸術文化教育プラットフォーム	<input type="checkbox"/> 実施校数	1校	1校		
	アウトリーチプログラム	■開催準備	実施	実施		
	子どもアドベンチャー	<input type="checkbox"/> 開催回数	1回	1回		
		<input type="checkbox"/> 参加者数	10人	31		
ミュージアム・ミッション	<input type="checkbox"/> 参加回数	1回	1回			
4	テーマ展に関連したイベント	<input type="checkbox"/> 開催回数	3回	8回	・テーマ展示に関連した講座やトークを、目標を上回る8回開催しました。	
文学館としてのネットワーク構築【使命5】	1	文学館、博物館、研究機関及び、研究者とのネットワーク	■大佛次郎研究会との協働	実施	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・資料貸出8回（神奈川近代文学館、神奈川近代美術館、練馬区立美術館、福島県立美術館、中津市歴史博物館、町田市国際版画美術館）
			■これまでに関わった研究者との関係継続と発展	実施	実施	
			■全国の文学館、博物館や研究機関との相互調査協力、展示協力	実施	実施	
	2	学校との連携ネットワーク	■ビブリオバトル・シリーズ（再掲）	実施	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・記念館で実施するイベント、記念館からのアウトリーチを、学校との連携で実施しました。 ・学校を訪問し、校外学習を案内しました。
			■芸術文化教育プラットフォーム（再掲）	実施	実施	
			■アウトリーチプログラムの開発（再掲）	実施	実施	
			■校外学習の誘致	実施	実施	
	3	近隣とのネットワーク	■近隣施設等との連携	実施	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川近代文学館、山手西洋館、猫の美術館、ギャラリー山手などの近隣施設と広報等相互に連携しました。 ・ボンパドル元町本店限定で大佛次郎にちなむ“ピコンリキュールのごほうびサバラン”を販売 ・近隣施設をめぐるデジタルスタンプラリーに参加 ・元町・中華街駅、アメリカ山公園、アメリカ山保育園、近隣商店にポスター掲示の協力を得ました。 ・「大佛次郎×ねこ写真展2023」ご協賛 6社 ・中区ブックフェスタへの参加、NPO山手アーカイブスとの連携展示などで、区内施設や市民団体と連携しました。
			■近隣商店街の連携	実施	実施	
			■中区内の施設や市民との連携	実施	実施	
■生涯学習施設との連携（追加）			実施	実施		
4	大佛次郎をゆかりとするネットワーク	■著作権継承者、資料所蔵者との良好な関係維持	実施	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・著作権継承者、資料所蔵者との良好な関係を維持し、大佛次郎に関する話の聞き取りを行いました。 ・積極的な働きかけと編集協力を行い、大佛作品の新刊、復刊、重版あわせて5冊と、大佛次郎の半生を題材にした漫画作品の単行本2巻が刊行されました。 	
		■出版関係者へ再版や新規出版の働きかけ（再掲）	実施	実施		
5	財団施設との連携 大佛次郎論壇賞受賞者による市民講座（再掲） 美術館との連携講座（追加）	<input type="checkbox"/> 実施回数	1回	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・財団施設と連携し、大佛次郎論壇賞受賞者による市民講座「聞くとは何かー他者の話を聞けなくなるとき」（あざみ野カレッジ）や美術館と共催の講座（横浜出前美術館 エデュケーターによるレクチャー「アートでめぐる横浜の街ー中区編ー」）を初開催し、大佛次郎に関心を持つ方の層をひろげることができました。 	
		<input type="checkbox"/> 入場者数	48人	64人		
		■横浜 [出前] 美術館（追加）	実施	実施		
6	割引設定による協力関係	■神奈川近代文学館との相互割引を継続	実施	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川近代文学館との通年相互割引、鎌倉文学館との期間限定相互割引を実施。交通機関、福利厚生団体等への割引協力を実施しました。 ・展示やイベントで、放送局、企業、建築家、修復家、地域団体と連携しました。 ・イベントにとどまらず、調査や聞き取りに記念館ボランティアの協力を継続的に得ました。 	
		■交通機関、福利厚生団体への割引協力	実施	実施		
7	展示・イベントでの連携継続	■団体、企業、アーティストとの連携	実施	実施		
8	市民ボランティアとの連携	■記念館ボランティアの継続	実施	実施		

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休館前の鎌倉文学館と連携し、両館の展示担当者によるトーク「展覧会のススメ」動画をYouTubeで配信しました。 ・町田市立国際版画美術館と協力し、当館所蔵のカリカチュアの調査を行い、22点を貸し出しました。 ・神奈川近代文学館や、鎌倉文学館など近隣の文学館との総合連携により、事業協力や広報協力、総合割引などを行いました。 ・中区を中心とした学校とのつながりの中から、デモ・ビブリオバトル等を実施しました。 <p>【課題】</p> <p>連携実績をさらに広げ深めるよう、取り組みます。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜美術館や市民ギャラリーあざみ野と連携した文学活字文化の魅力を伝える新規事業や大佛次郎記念館の資源を活かした初のロビーコンサートなど、ネットワークを広げ、芸術文化、多様性を学ぶ機会を創出しました。 ・大佛次郎記念館×鎌倉文学館 対談「展覧会のススメ」では、初めてWEBでの期間限定公開を行い、文学の多様な魅力に触れる機会を拡大しました。 ・近隣施設と継続した協力関係により、事業や広報、総合割引など安定した連携企画やサービスが実施されています。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>これまで連携した団体との関係を継続し、状況に合わせた活動や企画の検討を行うことを期待します。</p>

評価項目		令和4年度計画	実施状況		評価			
II 施設運営	施設の有効活用及び文化団体等への活動の場の提供【使命4】	1 基本的な施設の提供内容	■施設利用受付は3か月前の1日から先着順	実施	実施	<p>【成果】</p> <p>句会、歌会、朗読、落語など、読書推進活動の場として和室・会議室が活用されました。市民に文化を中心とした活動の場を提供し、和室、会議室とも利用率は目標を上回りました。</p> <p>【課題】</p> <p>入館者数、施設利用率は目標を達成しましたが、コロナ以前の水準には回復していません。コロナをきっかけに離れてしまった理由の検証が必要です</p> <p>【評価できる点】</p> <p>・条例に基づき、適切に施設を提供しました。</p> <p>・SNSを利用した広報や撮影利用等にもきめ細かく対応した結果、目標(和室22%会議室30%)を上回る和室・会議室の利用率に繋がりました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>コロナ禍からの回復に合わせて、また、提案書で示された指標の入館者数2年目25,000人(R5年)に向けて、更なる利用者の拡大に繋がる計画・運営を進めてください。</p>		
			■減免・割引は条例、規則、要綱に基づく	実施	実施			
		2 受付の運営体制	観覧者への対応	□開館中の配置人数	1名		1名	<p>・開館中は常時1名を受付に配置しました。</p> <p>・人権の尊重に配慮し、ホスピタリティのある接客を心がけました。</p> <p>・山手地区のマップを受付に備え、観光案内にも対応しました。</p> <p>・和室・会議室の下見や利用相談から当日まで丁寧に対応し、撮影、作品展示、お茶会、落語会などにご利用いただきました。</p>
				■人権の尊重に配慮し、ホスピタリティのある接客	実施		実施	
				■観光案内	実施		実施	
		公演有料施設利用者への対応	■申込から利用終了までスムーズに対応	実施	実施			
			■検討中の方に使い方を提案	実施	実施			
		3 利用促進・サービスの向上		■和室・会議室の空き状況を、ホームページに掲載	実施		実施	<p>・撮影や落語会等特徴的な利用事例のSNS発信や、利用者がテレビ番組で紹介されたことなどにより、貸出施設(和室・会議室)の利用が活発に行われました。</p> <p>・和室・会議室の空き状況を、ホームページに掲載し、いつでも確認できるようにしました。</p> <p>・観覧者、施設利用者アンケートのご意見から、展示パネルの追加などの改善を行いました。</p> <p>・和室利用活性化のためのキャンペーン企画を検討しました。</p>
				■和室パッケージプラン実施準備	実施		実施	
				■利用事例をブログ、SNSで発信	実施		実施	
				■研究団体等の活動支援	実施		実施	
				■観覧者、施設利用者アンケート	実施		実施	
		4 入館者数(観覧者数+施設利用者数)目標値	□入館者数(観覧者数+施設利用者数)	18,000人	18,279人		<p>・入館者数は目標を上回ることができました。</p> <p>・WEB来訪者数は、目標設定時からロボット検索を排除する等カウント方法を見直したため、目標設定の見直しが必要です。</p>	
			□WEB来訪者数	1,650,000件	278,054人			
		5 貸出施設稼働率の目標値	□和室利用率	22%	28.3%		<p>・和室、会議室とも目標を上回り活発に利用されました。</p>	
□会議室利用率	30%		43%					
2 組織的な施設運営(様式11)	1 必要人材の配置と職能	□施設長(館長)	配置	配置	<p>・計画通り人員を配置しました。</p> <p>・研究室は、資料研究、収集・保存、展示等を行う職員として、研究員1名と職員1名を配置。助言、提言を行う特任研究員1名、研究補助員(臨時雇)を配置。</p>			
		□事務職員2名	配置	配置				
		□研究員2名、特任研究員、研究補助員	配置	配置				
		□カルチャースタッフ4-6名	配置	配置				
	2 主要人材の能力担保	公共施設の職員としての意識とスキル向上 大佛次郎や作品の知識、書籍や資料の取扱いに関するスキル向上 ミュージアム運営や展示・イベントの企画力向上 資料保存や読書推進活動についてのスキル向上 日本文学研究の動向把握、資料の取扱い及び保存スキル向上	□接遇研修、人権研修、コンプライアンス研修、個人情報保護研修	1回/年	2回/年	<p>・集合研修とOJTを組み合わせて、スキル向上に努めました。</p> <p>・専門機関の研修に参加し、館内で情報を共有しました。</p>		
			□防災訓練、救急救命講習	2回/年	2回/年			
			■受付業務研修、横浜や観光情報の研修	通年	実施			
			■大佛次郎や建物の意匠、展示内容についての研修	通年	実施			
			□書籍、資料取扱い研修	1回/年	1回/年			
			■全国文学館協議会、図書館や博物館の研修	通年	実施			
■文化庁や日本近代文学館の専門研修	通年	実施						

評価項目		令和4年度計画		実施状況		
II 施設運営	指定管理者提案（要旨）	取組内容	目標	年間実績	説明	
3 施設全体の運営に対するアイデア・ノウハウの一層の活用（様式22）	1 「記念館を体験する」心に響く、五感で感じる展示・イベント	■見やすく、見た目も楽しめる展示	実施	実施	・見やすく、見た目も楽しめる展示となるよう、ビジュアルを工夫しました。 ・BGMや朗読音声で、耳でも楽しめる展示としました。 ・文字活字文化の魅力を体験できるイベントを、横浜美術館との共催により開催しました。（横浜出前美術館エドゥケーターによるレクチャー「アートでめぐる横浜の街—中区編—」）	
		■テーマ展に関連した音声公開（再掲）	実施	実施		
		□文字活字文化体験イベント（再掲）	1回/年	1回/年		
	2 記念館場の活用 所蔵品の活用 猫や建物等のコンテンツの活用	■閲覧室での、テーマ性のある書棚作り	□サロンでの季節感ある装飾	4テーマ/年	9テーマ/年	・閲覧室では展示やイベントにあわせておすすめ本コーナーを新設しました。 ・サロンの装飾は目標を上回る季節ごとのテーマ装飾を行い、撮影スポットとしても好評でした。 ・絵本「スイッチョねこ」2種の刊行、増刷を記念し、記念館全体を使った回遊性のあるイベント「スイッチョねこまつり」を開催しました。 ・生誕125年を記念するポストカードプレゼントを行い、SNSで反響がありました。
			■ロビーコンサートの開催（追加）（再掲）	実施	実施	
			■和室パッケージプラン実施準備（再掲）	準備	準備	
			□記念館全体を使った回遊性のあるイベント	1回/年	1回/年	
			■周年キャンペーンの実施（追加）	実施	実施	
			■紙媒体、WEB、音声等で、積極的に大佛作品の発信	実施	実施	
	3 大佛次郎と作品を後世に残す活動	□謎解き・クイズ	1回/年	1回/年	・様々な媒体を通じて、作品の引用や刊行に関する情報などを発信しました。 ・「スイッチョねこまつり」で2種の世界日報を作成、配布しました。親子でそれぞれのクイズをお楽しみいただきました。 ・建物前への横断幕設置を継続的に行うことで、来館促進につなげました。 ・財団のネットワークを、連携事業に活かすことができました。	
		■記念館の建物の外側への発信	通年	通年		
		■ネットワークの活用	通年	通年		
4 芸術文化振興財団のネットワークを生かす	■ネットワークの活用	通年	通年	・財団のネットワークを、連携事業に活かすことができました。		
	1 休館日の届け出		実施	実施	・各種申請や届け出は適切に行いました。	
	2 許認可及び届け出		実施	実施		
	3 目的外使用の申請		実施	実施		
4 財務状況の確認		実施	実施			
4 その他施設運営に関する事項	1 休館日の届け出		実施	実施	・各種申請や届け出は適切に行いました。	
	2 許認可及び届け出		実施	実施		
	3 目的外使用の申請		実施	実施		
	4 財務状況の確認		実施	実施		

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閲覧室では展示やイベントにあわせておすすめ本コーナーを新設しました。 ・サロンの装飾は目標を上回る季節ごとのテーマ装飾を行い、撮影スポットとしても好評でした。 ・絵本「スイッチョねこ」2種の刊行、増刷を記念し、記念館全体を使った回遊性のあるイベント「スイッチョねこまつり」を開催しました。 ・また、サロンでの季節ごとのテーマ装飾やイベントに合わせた閲覧室でのおすすめ本コーナーの新設、ティールーム霧笛と連携し季節に合わせたメニューを広報するなど、施設全体をお楽しみいただく視点を大切に企画や連携を行いました。 <p>【課題】</p> <p>引き続き、満足度を高めるような工夫を行ってまいります</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「スイッチョねこ」新装刊行と重版を記念し、夏休み期間に記念館全体を使ったお楽しみイベント「スイッチョねこまつり」を開催し、文学館の基本的な機能である「観る、知る、読む」を充実させ「観る、知る、聞く、読む、体験する」内容を盛り込み、子どもから大人まで楽しめる施設の回遊性に繋がるイベント開催となりました。 ・また、サロンでの季節ごとのテーマ装飾やイベントに合わせた閲覧室でのおすすめ本コーナーの新設、ティールーム霧笛と連携し季節に合わせたメニューを広報するなど、施設全体をお楽しみいただく視点を大切に企画や連携を行いました。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も大佛作品の後世への継承という観点からの取組を継続して行ってください。

評価項目		令和4年度計画		実施状況		
III 施設管理	指定管理者提案（要旨）	取組内容	目標	年間実績	説明	
1 保守管理業務（使命6）	1 日常点検業務・定期点検業務	□目視による日常点検	1回/日	1回/日	・日常点検業務・定期点検業務は記載のとおり実施 ・点検結果は所管課に報告しました。	
		□定期点検	1-6回/年	5回/年		
		□空気環境測定	2回/年	2回/年		
	2 施設及び設備の維持保全及び修繕	■日常点検により、日頃より施設の不具合箇所を把握	■予防的修繕にも積極的に取組み	実施	実施	・雨漏り箇所のコーキング補修、空調機修理、電力子メーター更新、PCサーバー機更新など、不具合には早期に対応 ・玄関扉等建具改修工事を市施工で実施 ・消防設備、電気設備更新工事に向けて、横浜市と協議
			■施設・設備の異常時には、利用者の安全確保を最優先に、適切に修繕等の対処	実施	実施	
			■1件60万円以上（消費税及び特別消費税を除く）の工事や、市の事由に基づいて施設の改造を伴う工事については、横浜市と協議	実施	実施	
			□特別書庫、書庫、ギャラリー等の点検、記録、調整点検、記録、調整(再掲)	2回/日	2回/日	
	3 所蔵品及び備品の管理	□休館日を利用した防塵作業（再掲）	□休館日を利用した防塵作業（再掲）	1回/月	1回/月	・所蔵品の適切な管理により良好な状態を保ちました。 ・物品確認を行い、故障品を整理・廃棄しました。物品管理簿を整え、市に報告しました。
			□専門業者による 防塵防微処理（再掲）	1回	1回	
			□年1回、物品管理簿の棚卸を行い、物品が適切に管理されているか確認し、市に報告	1回	実施	

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設維持・資料保存は計画どおり行いました。施設設備不具合には初期対応を心がけ、施設を良好な状態に保ち、安全・安心にご利用いただけるようにしました。 ・経年劣化による設備等の修繕や、点検等を適切に行いました。 ・感染症予防に留意し、施設運営を継続することができました。 ・防災訓練では、中消防署立ち合いのもと、避難誘導訓練、救急救命訓練を行いました。 <p>【課題】</p> <p>築40年以上経て劣化が進行しているため、引き続き横浜市と密に状況を共有します。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年を通じて、施設及び設備のきめ細やかな管理を行い、適切に業務を遂行できました。 ・経年劣化による設備等の修繕や、点検等を適切に行いました。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・築40年以上経過しているため、引き続き修繕や点検等により良好な施設の維持管理に努めてください。

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価	
III施設管理	指定管理者提案（要旨）	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	
2 環境維持管理業務 (使命6)	1 清掃業務	□日常清掃	6回/週	6回/週	・日常清掃、定期清掃により清潔な施設を保ちました。 ・施設貸出前には、消毒を含む清掃を行いました。		
		□定期清掃	4回/年	4回/年			
		■貸出施設は、利用の前に清掃	実施	実施			
		□アルコール消毒	3回/日	3回/日			
	2 環境維持	□温湿度データの確認（再掲）	2回/日	2回/日	・温湿度管理や空気清浄機設置により、良好な環境を維持しました。		
		■観覧場所に、空気清浄機を設置	実施	実施			
	3 廃棄物処理及び環境への配慮	■快適性を確保しつつ節電にも積極的に取組み	実施	実施	・省エネルギーを意識し、サーキュレーターを併用した温度管理を行いました。 ・書類のペーパーレス化を進め、紙の消費・排出量を削減しました。 ・消費期限が近づいた非常食をフードドライブに寄付しました。		
		■省エネルギーを意識した温度管理	実施	実施			
		■チラシの必要部数を精査し、紙の消費量やゴミの排出量を削減	実施	実施			
3 保安警備業務 (使命6)	1 保安警備業務	■職員の施設巡回	随時	随時巡回	・開館中の巡回と夜間機械警備で安全を保ちました。		
		■職員不在時は、機械警備により施設への侵入や火災等の異常を察知し早急に対応	実施	実施			
4 防火・防災等 (使命6)	1 平常時の防災対策	■消防法に基づき防火管理者を選定、消防計画を作成し所轄の消防署に届け出	実施	実施	・防火防災対策を記載のとおり実施しました。消防署の指導によりマニュアルを改訂しました。 ・聴覚障がい者対応モデルのAEDを設置し、全員で操作を訓練しました。		
		□自衛組織を結成し、職員全員で防災訓練	2回/年	2回/年			
		■防災マニュアルを事務所内の常時目に付く場所に設置	実施	実施			
		■聴覚障がい者対応モデルのAED（自動体外式除細動器）を受付前に設置し、防災訓練時に操作研修	実施	実施			
5 緊急時の対応 (使命6)	1 災害、事件・事故時の対応	■来館者の安全を第一に、直ちに必要な措置を講じる	発生時に実施	発生なし			
		■安全確保や通報等直ちに必要な措置を講じるとともに、所管課や財団事務局等関係者に緊急連絡	発生時に実施	発生なし			
6 その他施設管理に関する事項	1 公園管理業務	■道路や歩行空間の通行に支障がないようにする	実施	実施	・工事や収集資料搬入時には、公園と調整を行いました。 ・公園内工事の際には、来場者向け誘導表示の設置を依頼しました。		
		■専門知識を要すること及び管理区域外の公園部分の管理については、港の見える丘公園（環境創造局都心部公園担当）と連絡調整	実施	実施			
		□館内を清潔に保ち、入館時の検温と観覧スペースの1日3回以上の消毒を実施	3回/日	3回/日			
	2 感染症対策	■館内にハンドソープとアルコール消毒液を設置	実施	実施	・ガイドラインに従い、感染症対策を行いました。		
		■次亜塩素酸ナトリウム等ノロウイルス対策キットを常備	実施	実施			
			実施	実施			

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価	
IV収支	指定管理者提案（要旨）	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 指定管理料のみに依存しない収入構造（様式20）	1 利用料金の確保	■観覧料確保のため来客誘致	実施	実施	・全館を利用する撮影や、テレビ番組収録が行われ、施設利用料収入は予算を上回りました。	【成果】 ・文化庁AFF!2、感染拡大予防事業、横浜音祭り、地域の文化芸術活性化支援事業（地域活性化モデル事業）と公的な助成金・補助金を活用し、事業充実を行いました。NPO法人美術保存修復センター横浜の「絵画修復プロジェクト」により、5点の収蔵美術品修復を行いました。 【課題】 ・引き続き助成金・補助金等の獲得を目指します	【評価できる点】 ・全体を通じて、良好な収支バランスを達成できました。 ・補助金獲得に向けて積極的に取り組み、複数の補助金を活用することにより事業の充実につながった点について評価します。 【更なる取組を期待する点】 ・今後も効率的な資金計画を立て、収支のバランスに配慮した予算執行に努めてください。
		■施設利用料確保のため撮影誘致	実施	実施			
	2 自主事業収入の確保	■大佛次郎賞受賞記念講演会等有料イベントの実施	実施	実施	・講演会、コンサートを有料で開催し、事業収入は目標を上回りました。 ・グッズ新商品、ブックレット新刊を含むオリジナル商品を販売しました。 ・記念館前のスペースを活用し横断幕で情報発信を行い、観覧料収入を確保しました。 ・地域の文化芸術活性化支援事業（地域活性化モデル事業）、横浜音祭り補助金、AFF2 等助成金、補助金を得て事業を実施しました。 ・原稿執筆、講演による収入を得ました。		
		■スペースの活用	実施	実施			
		■ショップ事業、刊行物販売	実施	実施			
		■原版使用促進	実施	実施			
		■助成金、補助金、協賛金、寄附金の獲得	申請	実施			

評価項目		令和4年度計画			実施状況		評価	
IV 収支	指定管理者提案（要旨）	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価	
2 経費削減等効率的運営の努力 (様式20)	1 事業について	■費用対効果を常に意識しながら、事業の組み立てや経費執行	実施	実施	・記載どおりに実施 ・電気、水道の大幅な費用増大がありました。横浜市にご支援をいただきました。			
	2 発注や事務について	■見積もりの比較を行う	実施	実施				
	3 施設・設備管理について	■修繕は早期に対処	実施	実施				
		■光熱水費節減とペーパーレス化推進（再掲）	実施	実施				
	4 人件費	■メール、サーバでの情報共有を密にすることで超過勤務を抑制	実施	実施				
5 収支均衡への取組	■事業別・科目別での執行管理	実施	実施					
評価項目		令和4年度計画			実施状況		評価	
V 各種計画書・報告書の作成及び業務評価	業務の基準	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価	
1 日報、月報の作成・管理	■業務日報の作成	■業務日報の作成	実施	実施	・記載の通り実施		【成果】 計画どおり実施しました 【課題】 特になし	
		■管理運営月等をモニタリングにおいて報告	実施	実施				
	2 事業計画書・事業報告書の作成・管理	■事業計画書・事業報告書の作成	実施	実施				
		■事業計画に沿って成果が見える報告書を作成	実施	実施				
	3 業務評価の実施	■自己評価	実施	実施				
	評価項目		令和4年度計画					実施状況
VI その他	選定要項	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価	
1 市の重要政策課題への対応 (様式23)	1 個人情報保護についての取組	■当財団の定める「個人情報保護方針」等に基づき適切に対応	実施	実施	・記載の通り実施 ・車いすのご来館者や、大きなお荷物の搬入時には、スロープを設置しました。		【成果】 計画どおり実施しました 【課題】 特になし	
	2 情報公開についての取組	■当財団の定める「情報公開規程」等に基づき適切に対応	実施	実施				
		■事業計画・報告はHPで公開、管理運営の改善点をWEB公開	実施	実施				
	3 人権尊重についての取組	□人権研修	1回/年	1回/年				
	4 環境への配慮に関する取組	■省エネルギー・節電（再掲）	実施	実施				
		■チラシの適正数量（再掲）	実施	実施				
		■ごみの排出量削減（再掲）	実施	実施				
5 障害者差別解消	■字幕付き映像や音声資料の提供、職員による展示内容の説明	実施	実施					
	■貸出用車椅子や段差解消スロープの備え付け	実施	実施					
6 男女共同参画	■男女の別なく職員が活躍する職場づくり	実施	実施					
7 市内中小企業優先発注	■「横浜市中小企業振興基本条例」を踏まえ、特別な専門性が必要な契約等を除き、可能な限り市内中小企業への発注	実施	実施					
2 その他	1 保険及び損害賠償の取扱い	■施設賠償責任、動産総合、レジャーサービス施設の各種保険に加入	実施	実施				
	2 関係法令等の順守	■業務の基準等の定めに応じた関係法令を順守	実施	実施				
	3 市及び関係機関等との連絡調整	■事故や不具合時は速やかに報告し、随時共有	実施	実施				
■車両による搬入搬出や建物外に影響する管理業務等を行う際には、公園管理者と調整し、十分な近隣対策		実施	実施					

評価項目	令和4年度計画	実施状況
------	---------	------

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】 今指定期間から設けた特別整理期間を活用し、資料調査とデジタル化を行うとともに、令和5年度中の公開を目指し、新たなデジタルアーカイブの分類体系化を準備しました。また「南方ノート・戦後日記」(未知谷刊/大佛次郎記念館 編)の令和5年度の出版に向けて、出版社・監修者と連携しながら翻刻や調査を進めました。</p> <p>テーマ展示は、多彩な側面から大佛次郎の人物と作品を紹介しました。コロナ禍の影響が残る中、ほぼ目標通りの来場者を得ることができました。当館はこれまでも近隣地域や学校等との連携により多様な事業を行ってきましたが、令和4年度は特に、当財団の他運営施設である横浜美術館、市民ギャラリーあざみ野と連携し、新たな事業を実施しました。また令和4年度は公的な助成金・補助金を活用し、事業充実を行うことができました。</p> <p>管理面においては、電気料の高騰により、収支が厳しい中、横浜市から支援を受け、乗り切ることができました。雨漏り補修や空調機の修理など、不具合には早急に対処しました。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期に続くことが予想される物価高騰の影響 ・コロナ禍以前への来場人数、利用人数等の回復 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別資料整理期間を活用した資料調査を実施し、カリキュラム目録や資料のデジタル化を行うなど保存と継承に努め、またその展示公開を通じ横浜の文芸文化の発展に寄与したことを高く評価します。 ・大佛次郎没後50年に向けて、多数の施設等と連携事業を模索・共同企画し、没後50年に当たる2023年に相応しい記念事業や出版の準備を多様な切り口で進め、魅力ある計画が立てられています。 ・関係者と協力・連携しながら、大佛次郎の戦中・戦後の未発表の手記・日記群を「南方ノート・戦後日記」として刊行する準備を進めたことを評価します。 ・ウェブブログやSNSを活用した情報発信、YouTubeでの展示解説公開をするなどウェブ上での情報公開を積極的に行い、新たな利用者への働きかけに繋がりました。 ・実展示やイベント等の事業についても館全体を使ったお楽しみイベント「スイッチョねこまつり」やビブリオバトルで初めて書籍と服装にテーマを設け開催場所を和室にするなど、新たなアイデアを取り入れた点を評価します。 ・地域団体や他施設との連携を深め新たな事業の展開を行い、助成金・補助金を積極的に活用し事業を実施することで事業の幅が広がった点を評価します。 ・施設運営・管理においては、経年劣化による設備等の不具合を防ぐべく定期的な点検等を適宜実施し、突発的な修繕についても適切に対応し、安定的な施設運営を行いました。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年5月に感染症対策ガイドライン等が廃止され、施設の運営についてもコロナ禍以前の状況に戻りつつあります。設置目的を効果的に達成できるよう、新たな事業やサービスを積極的に展開されることを期待します。 ・デジタルアーカイブの検証・構築を進め、展示の活用等を視野に入れながら、データの分類体系化を計画的に進めてください。 ・より多くの市民へ、多様な切り口や手段で大佛作品と大佛次郎の生き方を発信し、魅力ある文学館としての機能・役割を果たせるよう今後の発展的な取組に期待します。